

対面とインターネット上の読書会が
知識獲得・視点取得・情動共有に及ぼす影響
Effect of face-to-face and computer-mediated reading circles on
knowledge acquisition, perspective taking, and emotion sharing

学籍番号：201221594

氏名：野崎裕司

Yuji NOZAKI

読書会とは、数人が定期的に集まって本についての感想を述べ合う会合である。読書会のよい点として、(1) 知識や教養面での発見があること（知識獲得）、(2) 自分一人では気がつかなかったことを発見できること（視点獲得）、(3) 読んだ本の感動や感情を共有できること（情動共有）がある。

近年、読書会の会話形式も変化しており、インターネット上のチャットやSNSを使った読書会も普及している。対面式とチャット式の読書会を比較した場合、チャット式ではタイピングをするために1つの発言に時間がかかることから、対面式の方が総じて発言量が多いと考えられる。また、チャット式の読書会の特徴の一つに表情、声などの非言語情報の欠如があり、対面式のほうがチャット式よりも情動が伝わりやすいと考えられる。

しかし、チャット式ではコミュニケーションにおける匿名性が対面式より高いことから、少数派の意見がでやすいと指摘されており、多様な視点が得られると考えられる。さらに、チャット式では参加者が課題志向的になることが指摘されており、本を読んだ後に知識について話す読書会では、参加者はより多くの知識についての発言を聴くことができると考えられる。

本研究では、以下の4つの仮説を検討することを目的とする。

仮説1：対面式読書会のほうが、チャット式読書会に比べて発言量が多い

仮説2：チャット式読書会のほうが、対面式読書会に比べて知識獲得が多い

仮説3：チャット式読書会のほうが、対面式読書会に比べて視点取得が多い

仮説4：対面式読書会のほうが、チャット式読書会に比べて情動共有が高い

本研究では、大学生30名を対象に会話形式（対面式・チャット式）の1要因2条件の読書会の実験を行った。各条件は5グループずつ（各条件15名ずつ）とした。読書会では読書材として『物語の役割』（小川，2007）を使用した。被験者は事前に指定された本を読み、知識シート（本を読んで知ったことや疑問に思ったことを書く用紙）に記入してから1グループ3名の読書会に参加した。会話は、最初に5分ずつ本を読んで知ったこと、感想や印象等について発表してもらい、その後15分間話し合いを行った。なお、チャット式は個別の部屋で、対面式は同じ部屋で3名が参加した。

知識獲得の測定方法は、知識シートに書いた項目について、読書会が終わった段階で知識がより深まったものに印をつけてもらい、会話内容から印をつけた項目と関係のある読書会中の発言を抽出した。視点取得の測定方法は、話し合いの最中に自分と異なる意見があった場合にメモを取るよう教示をし、読書会終了後、その数を集計した。情動共有は、既存の共感経験尺度（角田，1994）をもとに作成した項目を使用し、読書会終了後、質問紙に回答してもらった。

分析の結果、仮説1および仮説4は支持されたが、仮説2および仮説3では各条件間に差は見られず仮説は支持されなかった。会話形式の各条件間に差が見られなかった理由としては、知識獲得や視点取得に関わる他者の意見の割合が低かったものの、対面式読書会のほうがチャット式読書会よりも発言数がかかなり多く、条件間の差が見られにくくなったのではないかと考えられる。このように会話形式の各条件間に差は見られなかったが、チャット式読書会は対面式読書会と比べて、発言量に対する知識獲得と視点取得の割合が高かったことから、知識獲得と視点取得に関して密度の濃い読書会が行われたと考えられる。

研究指導教員：鈴木 佳苗

副研究指導教員：大庭 一郎